

73回目の長崎原爆の日



▼核兵器に依存しない

長崎は9日、被爆から73年を迎えました。長崎市平和公園で、平成時代最後の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が行われました。田上市長からは平和宣言で、核兵器禁止条約の早期発効や核に依存しない安全保障を、国際社会に求めました。

原爆投下時刻の午前11時2分、参列する市民らが黙とうを行い、被爆者の思いを次世代に継承することの意義や戦争体験者が少なくなる中で、語り継いでいくことを忘れてはなりません。

筆洗
晴れた空には、妙なものが見えた。〈落下傘が二つふわふわ降りてきよるバイ、おかしかねえ〉。長崎測候所で、観測当番が言う。天気図の修正をしていた所長が立ち上がった。〈広島に落とされた新型爆弾かもしれない、早く防空壕に…〉▼長崎海洋気象台の「100年のあゆみ」には、原爆投下の日の気象やきのこ雲の詳細とともに職員証言が残されている▼職員が部屋から駆けだすと、青白い閃光が走る。外の景色は〈黄色のフィルターを〉通したように感じられ、長崎市上空には小さな丸い雲が見えた。〈砂浜に寄せる白いさなみそっくりな…雲は…その輪を広げていく〉▼続いて〈百雷が一時に落ちたかと思つ爆発〉。爆風と熱にのまれた。字を追って行けば、その時の緊迫感が恐怖を伴って迫ってくる。貴重な記録だろつ▼きよつは長崎原爆の日。悲しみ、苦しみ、恐怖を体験した人々が少なくなる中で迎える平成最後の原爆忌である。被爆者の六割以上が、高齢による体力の衰えなどで被爆体験を語っていない。共同通信によるそんなアンケート結果も、先日の紙面にあった▼生の声が細る一方で、世界には、今なお一万五千発の核兵器があるという。〈ささなみの雲が広がったところ〉に巨大でグロテスクで陰鬱な色彩のきのこ雲が不気味に浮いていました。あの時を思う必要がまたまたあると胸に刺さる。2018.8.9

8月9日
東京新聞

皆さんは知っていますか？



●平和記念像の意味●

神の愛と仏の慈悲を象徴し、垂直に高く掲げた右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を、横にした足は原爆投下直後の長崎市の静けさを、立てた足は救った命を表し、軽く閉じた目は戦争犠牲者の冥福を祈っている。

被爆者が少なくなりつつある時代に、私たちが語り継いでいくことの大切な日でもある。